



平成25年6月28日
国土交通省中部地方整備局
清水港湾事務所
三河港湾事務所
名古屋港湾事務所

お知らせ

海外14カ国の研修生が清水港、三河港、名古屋港を視察しました。

～JICA 集団研修「港湾開発・計画」研修生を受け入れました～

1. 概要

現在、独立行政法人国際協力機構（JICA）が平成25年度集団研修「港湾開発・計画」の一環として視察を実施しており、6月25日～27日の3日にかけて、14カ国17名の研修生を清水港、三河港、名古屋港にて受け入れました。

今回は、開発途上国で港湾行政及び管理運営分野で中核となる幹部職員に我が国における港湾開発と管理運営手法に加え、長期開発戦略及び港湾経営手法を伝えることを目的に実施しております。今年度では初の実施です。

※本研修では、それぞれの国が取り組んでいる港湾政策について研修生相互で討論し成果を自国に反映させ、各国の港湾にかかわる諸問題の解決と社会経済の発展に寄与することを目的としており、国土交通省港湾局において、1963年から研修生を受け入れています。

2. 研修の様子（清水港、三河港、名古屋港）

別紙

※研修の状況写真がご希望の方は対応いたしますので、お問い合わせください。

3. 配布先 中部地方整備局記者クラブ、名古屋港記者クラブ、静岡県政記者クラブ、豊橋記者クラブ、港湾新聞、港湾空港タイムス、日本海事新聞、海事プレス

4. 問合せ先

国土交通省 中部地方整備局 清水港湾事務所

企画調整課 野村（のむら） Tel 054-352-4148 Fax 054-353-3072

国土交通省 中部地方整備局 三河港湾事務所

企画調整課 日置（ひおき） Tel 0532-32-3252 Fax 0532-32-5049

国土交通省 中部地方整備局 名古屋港湾事務所

企画調整課 黒川（くろかわ） Tel 052-651-6763 Fax 052-652-0303

5. 研修の参加者と行程(概略)

(1) 出身国:

14カ国(フィリピン、ミャンマー、ナウル、パプアニューギニア、ソロモン諸島、トンガ、サモア、コロンビア、南スーダン、インドネシア、カンボジア、エルサルバドル、トーゴ、トルクメニスタン)

(2) 行程(概略):

○6月25日(火) 清水港

13:10
↓
13:25 } 清水港湾事務所長挨拶、「清水港みなと色彩計画」講師のご紹介

13:30
↓
15:30 } 清水港港内視察及び、会議室にて清水港概要の説明

○6月26日(水) 三河港

10:00
↓
11:00 } フォルクスワーゲンジャパングループジャパン株式会社 視察

11:15
↓
11:45 } カモメリア(展望室) 訪問

13:45
↓
15:30 } ラグーナ蒲郡 訪問

○6月27日(木) 名古屋港

9:40
↓
10:40 } 飛島コンテナ埠頭株式会社 視察

11:00
↓
12:00 } 名古屋ユナイテッドコンテナターミナル株式会社 視察

(別紙 1)

清水港



清水港と富士山の美しい風景(資料写真)



清水港概要説明の様子



清水港港内視察の様子 その1



清水港港内視察の様子 その2

(視察の様子)

○(事務所会議室にて)

清水港の概要についての説明と、トピックとして世界文化遺産に登録された富士山についての紹介を行いました。研修生は「コンテナターミナルやバースは埋め立て地にあるのか。」や、「将来計画はどうなっているのか。」、「市街地が近いが公害問題は起きていないのか」など活発に質問をしていました。

○(港湾業務艇による港内視察にて)

港内を周回しながら、「清水港みなと色彩計画」のアドバイザーを務めている東海大学の東教授より、同計画の狙いと進捗状況などの説明を受けました。研修生からは「この色彩計画プロジェクトはいつになったら目標を達成するのか。」、「ホワイトとアクアブルーを基調としているのには何か意味があるのか。」など活発な質問が出され、同計画に非常に興味を持っている様子でした。

○(研修後の感想)

研修後に研修生に感想を聞いたところ、「富士山をシンボルとして大事にしており、印象的だった。港も新しいターミナルの整備など進化している。自分の国も自然との調和を大事にしており、勉強になった。」、「色々な企業が港にあって、協調して色彩計画に取り組んでいるのが感動的だった。」といった感想を述べていました。

(別紙 2)

三河港



フォルクスワーゲングループジャパン株式会社視察の様子



カモメリア訪問の様子 その1



カモメリア訪問の様子 その2



ラグーナ蒲郡訪問の様子

(視察の様子)

○(フォルクスワーゲン グループ ジャパン株式会社 豊橋インポートセンターにて)

当日は、最初に明海地区にあるフォルクスワーゲングループジャパン株式会社を訪問しました。研修生は、「日本の中で「センター」の設置になぜ三河港を選んだのか。」や、「今後、取り扱う台数が増えた場合には日本での生産を考えないのか。」、「三河港で陸揚げされているのは、日本市場向けのみであるか。」など、活発に質問をしていました。

○(インフォメーションセンター「カモメリア」展望室にて)

次に神野地区にある「ポートインフォメーションセンターカモメリア」を訪問しました。三河港の概要について説明を受けた後、展望室から完成自動車の一時保管ヤードを見ながら、自動車拠点港として活気あふれる三河港を見ていただきました。ここでは、「展望室から見える車は主にどこに運ばれるのか。」、「車は船にどのくらいかけて積み込むのか。」等、活発に質問をしていました。

○(ラグーナ蒲郡(蒲郡海洋開発株式会社内)にて)

午後からは、大塚地区にある複合型マリンリゾート施設「ラグーナ蒲郡」を訪問しました。ここでは、ラグナマリーナを始めとする港湾施設等の概要説明や施設内の視察をしました。研修生は「何月頃に人が一番多く来訪するのか。」、「埋め立てに関する法律は国の法律なのか。」、「マリーナの係留するための料金は船の大きさで決まっているのか。」など様々な質問をしていました。

(別紙 3)

名古屋港



飛島コンテナ埠頭株式会社視察の様子 その1



飛島コンテナ埠頭株式会社視察の様子 その2



名古屋ユナイテッドコンテナターミナル株式会社視察の様子 その1



名古屋ユナイテッドコンテナターミナル株式会社視察の様子 その2

(視察の様子)

○(飛島コンテナ埠頭株式会社にて)

当日は、飛島コンテナ埠頭株式会社に視察を受け入れていただきました。同社は、世界で初めてラバータイヤ式ガントリークレーンの遠隔自動化を実現し、日本で初めて自動制御による無人のコンテナ輸送用台車を導入しています。研修生は自動化コンテナターミナルを作った背景や課題、荷役機械の処理能力、システムトラブル時の対処方法などに興味を示し、活発な質問をしていました。

○(名古屋ユナイテッドコンテナターミナル株式会社にて)

その後、国内最高クラスのコンテナ取扱量を誇る名古屋ユナイテッドコンテナターミナル株式会社を訪問しました。ターミナルの概要説明の際には、蔵置コンテナのオペレーション手法や、ターミナルの処理能力について興味深く質問をしていました。